

令和5年度 第3回 蜷塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月13日（月）13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 蜷塚中学校 会議室
- 3 出席委員 久野 隆久、山田 谷一、川上 玲子、田村 智代、袴田 智恵美、橋本 憲幸、重信 明利、安藤 好恵、矢野 貴恵
- 4 欠席委員 佐々木 知成
- 5 オブザーバー 石田 博基（西部協働センター）
- 6 学 校 鈴木 公一（校長）、榊原 晋（教頭）、柏木 直人（CS 担当）、小谷 留美（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 小谷 留美
- 10 議長の選出

袴田委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項 熟議

- (1) 今年度後期、学校評価に基づいた来年度の学校運営
- (2) 今後のキャリア教育について
 - ・学校空き教室運用（本物の芸術家の活動を見る）について
 - ・「面接の受け方講座」について

12 会議記録

司会の柏木から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校空き教室運用について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき学校空き教室運用について説明があり委員からは、以下の発言があった。

- ・アトリエ蜷塚「本物に触れる」を令和6年度、発展させ継続して進める。自分から意欲をもって何かに取り組み、それを言葉で表すことが必要。（榊原教頭）
- ・多様性の名において、何でも認められると、トラブルにつながっていくと思う。許容範囲は認めながらも、ある程度くくりを作り本物に触れる。いろんな人と関わりを持つていくことが大切。外部の講師もよいが、近くにいる先生が本物を出したら、子供たちのエモーションになる。（橋本委員）
- ・生徒が参加し希望を形にすることは、学習の機会として価値があると思うが、ハードルが高い。年数回の学校運営協議会で形にできるのか。（矢野委員）
- ・先生の特技を、生徒に披露できる機会があればよい。生徒が持っている本物の特技を見せられたら、身近に感じられるのではないのか。（重信委員）

- ・生徒の立場で考えてみたが、本物をどう捉えて、どのようにプレゼンしたらよいのかと思った。過程が大事。(安藤委員)
 - ・本物の捉え方が、皆違うと思う。プレゼンまでのプロジェクトを、学校としてどういうふうに組んでいくのが大事。生徒は、身近にいる先生の本質に触れたら驚きを感じる。総合の時間にやりますか。(袴田委員)
 - ・総合の時間中心になるのではないのか。(榊原教頭)
 - ・いろんなものに触れ合うことは、化学反応を起こし提供することはよいことだと思う。関心がなくても何か気づきの可能性がある。教育課程プラス α で、ゆとりがなければ追い込めると思う。あまり忙しくならないように。(山田委員)
 - ・生徒が、何を本物だと思うのか興味を持った。自分が本物だと思う価値観を知ることができる。生徒が、プレゼンまでの過程を決めればよい。(田村委員)
 - ・プレゼンは、小学校の授業で取り入れているので、受け入れてくれると思う。CSは先生の負担を減らし、地域でカバーするところがあるので、先生が披露することになると大変になる。講座の形なのか、生徒体感型どちらなのか。(川上委員)
 - ・完璧を求めすぎて、完璧でないことを批判することが問題。先生と生徒が、関係性を深め会話してほしい。人間的な触れ合いができれば十分。一回で終わらせず、好き嫌いがあってもよいが、無関心なのが怖い。(久野委員)
 - ・負担を考え、定義をこちらで決めずに子供たちに任せる。一緒に感じ、触れ合うくらいのおおらかさで、目標を設けず縛りを作らない。いろんな人に声をかけている。条件的に、お金が必要なことがある。作品だけを飾るなどスポット的な参加も協議する。委員が話しをしてくれているため、広がりをもっている。(鈴木校長)
 - ・生徒役員だけではなく、いろんな生徒にも場を積む機会を与えてあげたい。
(石田オブザーバー)
- 協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

(2)「面接の受け方講座」について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき面接の受け方講座について説明があり委員から、以下の発言があった。

- ・学校運営協議会の委員を中心に、地域の人を推薦してもらい、2人ペアで8名が必要。日常接していない人から質問されても、上手に受け答えできるような経験をさせたい。
(榊原教頭)
- ・面接評価カードの記入は、ペアの2人で分けるのか、1人で全員分記入するのか。
(袴田委員)
- ・総合評価とアドバイスでよいと思う。(重信委員)
- ・全部チェックしなくてもよいのではないか。(久野委員)
- ・面接の基本は事前に指導するのか。(川上委員)
- ・カードの記入は、2人で分けても、1人で記入してもどちらでも可能。チェック項目

を絞り総合評価だけでもよい。この項目のような視点で見てもらえたらよい。基本は学年で統一して指導する。さくら連絡網では、協力者の参加アンケートをする。

(榊原教頭)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

13 報 告

矢野学校支援 CD より 2年職場体験学習進捗状況

12/5(火)・12/6(水)に実施。受け入れ事業所へ、電話連絡で確認し、全員分の確保ができた。コロナで受け入れが難しかったところの新規発掘ができた。中学生が来ることを楽しみに待っていてくれている。

連絡事項

- (1) 司会から、次回会議は、令和6年2月9日(金)午後13時30分から蜷塚中学校会議室で開催する旨の報告があった。
- (2) 学校関係者評価及び学校運営協議会自己評価について
- (3) 次回議長は山田委員が務める。